

施策2 「横浜農場」の展開による地産地消の推進

事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

身近に市内産農畜産物を買える場や機会があることへの市民ニーズは高く、地域で生産されたものを地域で消費する地産地消の取組は、身近に農を感じ、横浜の農への理解を深めるきっかけにもなります。そこで、地産地消の取組を推進するため、地域でとれた農畜産物などを販売する直売所等の整備・運営支援や、市内で生産される苗木や花苗を配布するなどの取組を進めます。あわせて、地産地消に関わる情報の発信など、PRを推進します。

(1) 地産地消にふれる機会の拡大

●直売所支援等の地域に根差した地産地消の推進

直売所や加工所に必要な設備の導入等を支援します。また、市民に身近な場所で実施される青空市やマルシェ等の継続的な開催を支援します。

●市民が市内産植木や草花に親しめる機会の創出

市民が市内産植木や草花に親しめる機会を創出するため、市内の植木農家や花き農家が生産した苗木や花苗を、市民への配布や公共施設、農地の縁辺部への植栽に活用します。

●市民に伝わる地産地消の情報発信

情報誌やパンフレットなどの制作・発行やウェブサイト・SNSなどの活用により地産地消の取組のPRを推進します。また、「横浜農場」を活用した市内産農畜産物のブランド化に向けたプロモーションの強化を図ります。特に、生物多様性の保全や美しい農景観の形成など、多くの意義のある市内水田を守るために市内産米のPRを行います。また、地域の特性を生かした地産地消の取組を推進します。



青空市・マルシェ等の開催



市内産苗木や花苗の配布

取組の目標

事業	取組	5か年の目標	備考
③	(1) 地産地消にふれる 機会の拡大	●直売所・青空市等の支援：285件 ●緑化用苗木等の配布：125,000鉢 ●市内産花苗の公共施設等での活用：10件 ●情報発信・PR：情報誌などの発行35回	・285件の内訳： 直売所・加工所85件、 青空市・マルシェ等200件

横浜農場の展開

●横浜農場とは

横浜は大都市でありながら、市民に身近な場所で、野菜や米をはじめ肉などの畜産物まで多品目の農畜産物が生産され、美しい農景観が広がっています。また、意欲的な生産者、市内産農畜産物を利用する飲食店・事業者、「農」に関心が高い市民（消費者）など様々な主体が関わって地産地消を進めているのも横浜の特徴です。

このような、横浜らしい農業全体（生産者、市民、企業などの農に関わる人々、農地・農景観、農業生産活動など）を一つの農場に見立て、「横浜農場」という言葉で表しています。



●横浜農場の展開

以下の取組を強化しながら進めていきます。

・人材・場の活用や各分野との連携

特に地産地消に関わる人材の育成や企業等との連携を強化し、協働して横浜ならではの都市農業の活性化を目指します。

・プロモーションの強化

「横浜農場」のロゴの市内産農畜産物等への表示、イベントや広報等での積極的な活用を進めます。また、身近な場所で行われるマルシェの支援など、地域に根差した地産地消の取組を進めます。



横浜農場
Instagram



横浜農場の展開

【様々な主体が連携して推進】 ●生産者 ●飲食店（地産地消サポート店等）
●事業者（JA、連携企業等） ●市民（消費者、はまふうどコンシェルジュ等）



質の高い農畜産物をつくる意欲的な **生産者**

市内産の食材を利用する **飲食店**

市内産農畜産物を利用して土産品等を加工・販売する **事業者**

地域で横浜の食や農を通じて豊かな暮らしを楽しみ、横浜の農業を支える **市民（消費者）**

生産者、事業者及び市民と連携し、市内産農畜産物等の積極的な利用を進め、その魅力を発信する **横浜市**

横浜の食や農が横浜ブランドとして、市内で更に展開されるとともに、観光客や市外にも浸透（市内飲食店でのメニュー提供、横浜土産の充実など）

生産者の
農業経営の
安定化